

国立国会図書館の平成 24 年度の活動報告

松井 一子 国立国会図書館 収集書誌部 資料保存課

国立国会図書館は、平成 24 年度、救援委員会からの要請に基づくものではないが、文化財等の救援に関わる活動を次のとおり行った。

1. 図書館資料復旧の支援

1-1 岩手県陸前高田市立図書館関係

6 月、郷土資料の応急処置作業に際しての技術指導のため、岩手県立図書館からの依頼に基づき、職員 1 名を現地に派遣した。



陸前高田市立図書館所蔵郷土資料の応急処置作業

10 月、岩手県教育委員会からの依頼に基づき、岩手県指定有形文化財「吉田家文書」を東京本館へ搬送し、文書の長期的保存及び学術図書としての活用を目指して、洗浄、欠損部分の補てん等の本格修復を開始した。作業の進捗については、Facebook を通じて発信している。

(<https://www.facebook.com/yoshidakeshufuku>)

1-2 相談対応等

8 月、書籍の修復について山形文化遺産防災ネットワークから問い合わせを受け、対応した。

9 月、図書館資料を一時保管する際に虫菌害を予防する方法について福島県立図書館から問い合わせを受け、対応

した。

このほか、依頼に基づき、書籍の簡易補修に関する研修講師として、7 月に岩手県立図書館へ職員 1 名、8 月に宮城県図書館へ職員 2 名を派遣した。

2. その他

2-1 刊行物の出版

被災した紙資料の修復に関する文献レビューを行い、『カレントアウェアネス』にまとめを掲載した。

・久永茂人「研究文献レビュー：被災した紙資料の救出・修復」『カレントアウェアネス』第 315 号（2013.3.） pp. 21-27

また、文化財等の救援に関わる取組について、『国立国会図書館月報』に以下の記事を掲載した。

- ・「被災資料を救う：国立国会図書館の 1 年間の取組みを振り返る」615/616 号（2012.6./7.） pp. 4-10
- ・岡橋明子「一歩ずつ、前に：被災資料救済支援の現場から」620 号（2012.11.） pp. 5-10
- ・「郷土の歴史を残す：復興支援活動としての吉田家文書本格修復」624 号（2013.3.） pp. 25-30

2-2 関連行事の開催

12 月、図書館における地震対策をテーマに「第 23 回保存フォーラム」を開催し、宮城県図書館、福島県立図書館、東北学院大学図書館及び国立国会図書館から、東日本大震災での復旧経験を報告した。

2-3 国際会議における発表

8 月、国際図書館連盟 (IFLA) の第 78 回年次大会において、図書館の被災資料救済に関する以下の発表を行った。

- ・Akiko Okahashi. Lessons learned: training programs for post disaster recovery from the Great East Japan Earthquake. (資料保存分科会・教育研修分科会共同セッション)

-
- Naoko Kobayashi. Report on disaster-related activities by IFLA PAC Regional Center for Asia. (資料保存コア活動会議)



吉田家文書の本格修復作業